

富士見市防災環境カルテ
水谷第8町会

位置番号 40

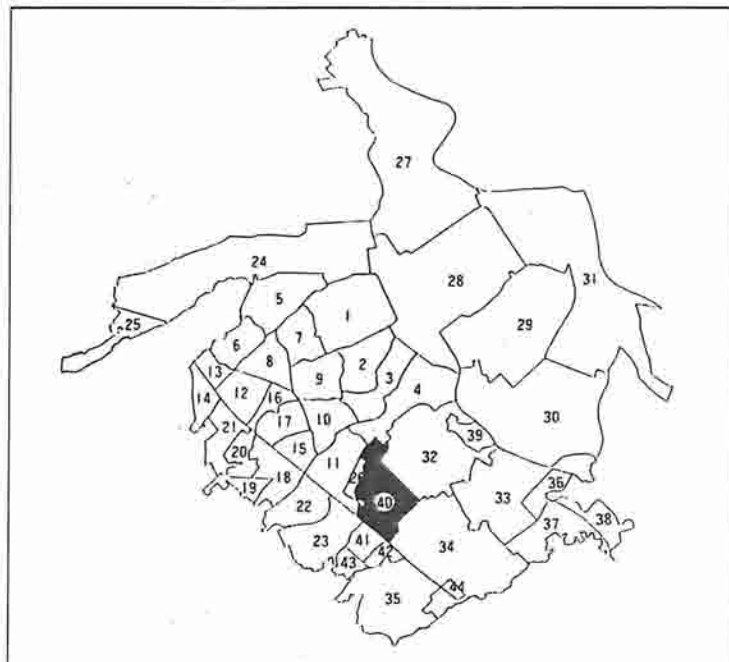
・概況

水谷第8町会は、富士見市の中央部に位置し、北側は急斜面〔段丘崖（急）〕から低地（谷底平野）に至り、他の地域は台地（台地段丘）で形成されている。北側の斜面（武蔵野の雑木林）に打越町会と隣接する打越公園、台地には、みずほ台小学校、水谷第8町会集会所、大原公園、みずほ台中央公園、入間東部地区消防組合富士見消防署みずほ台分署などがある。西側には県道大井・朝霞線と東武東上線が通り、みずほ台駅東口は、富士見市の玄関口の一つとなっている。南側のみずほ銀杏通りには商店街、住宅地が、そして駅前の商業地域は防火地域に指定され、都市防災を踏まえた街づくりが促進されている。

水害は、水害履歴から台風に伴う大雨により、北側の低地にある水田・畑と家屋が、水田の灌漑用水路、住宅地内の下水路からの溢水のため、それぞれ冠水、浸水する内水災害の発生が予想される。

地震災害は、低地の木造建物密集地で火災が発生した場合、延焼の危険性が高いと予想される。

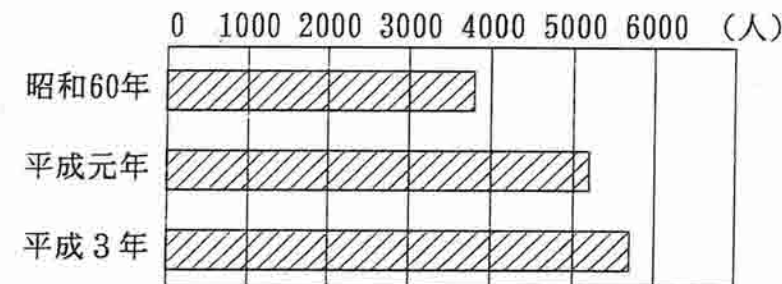
・位置図



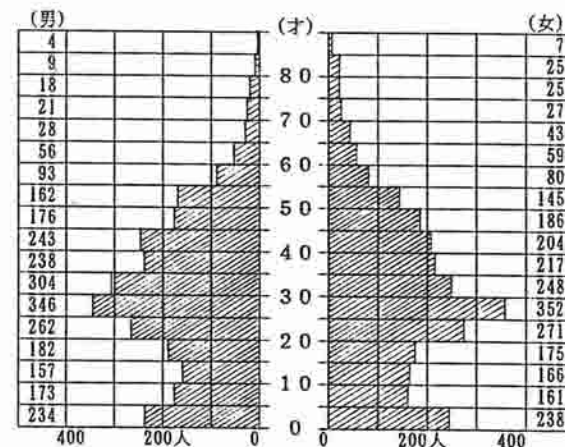
1. 基礎指標

・面積	0.433 km ²
・人口(平成3年10月1日現在) 男	2,823人
女	2,739人
計	5,562人
・人口密度	12,845.3人/km ²
・寝たきり老人数	4人
・ひとり暮らし老人数	10人
・世帯数	2,068世帯

・人口推移

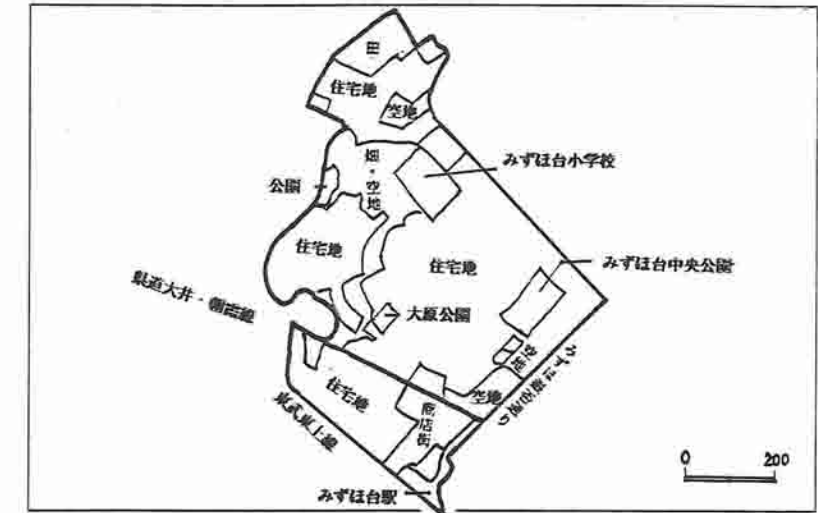


・年齢別人口(平成3年)



・商住工混在率住居系	90.9%
店舗系	5.0%
工業系	4.1%

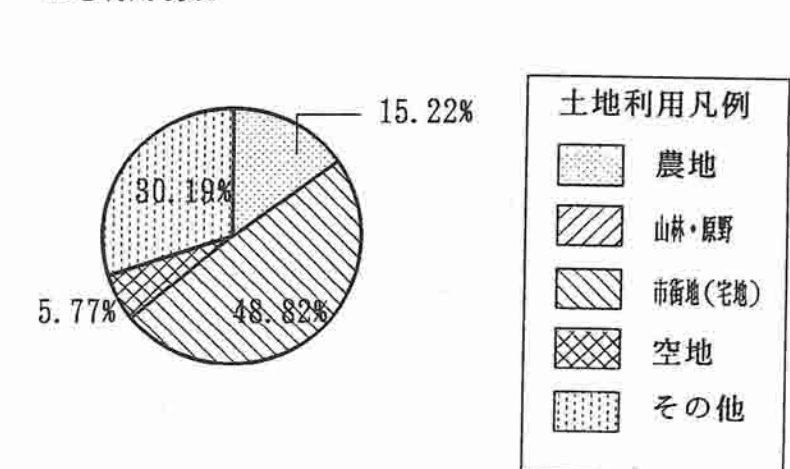
・町会現況図



・用途地域図



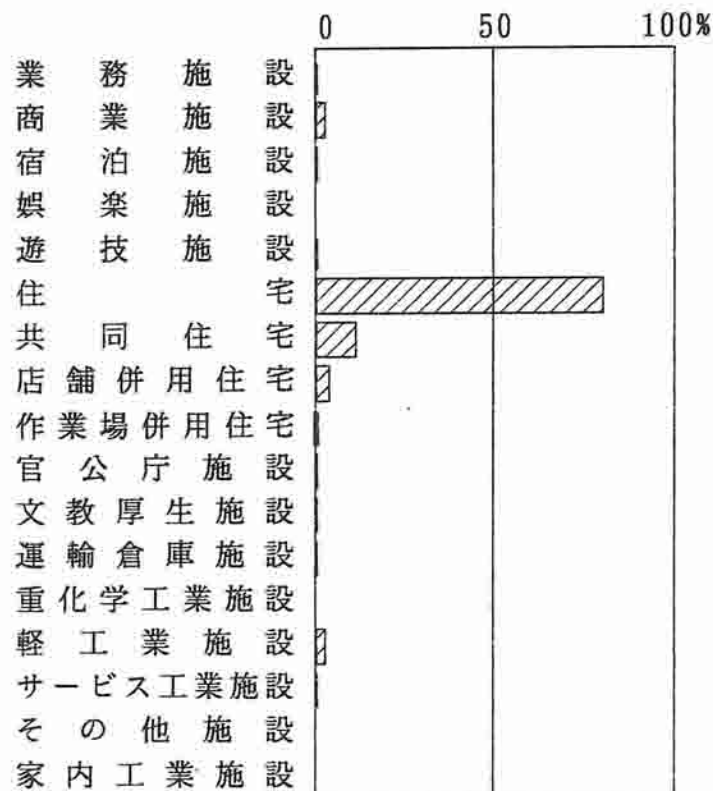
・土地利用現況



2. 建物指標

・建物棟数	1,243棟	
木造建物	830棟	
非木造建物	413棟	
・建物面積	66,814.52㎡	
木造建物	34,113.00㎡	
非木造建物	32,701.52㎡	
※建物面積は1階の面積		
・住宅率	78.8%	
・木造率	66.8% (830棟)	
・昭和34年以前の木造家屋実棟数	5棟	
・同上率	0.6%	
・建物階層別現況(木造建物)		
1階	185棟	22.3%
2階以上	645棟	77.7%

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	57本	131.6本/㎩
・幹線道路率	5本	11.5本/㎩
・公共空地面積	30,002.0㎡	
・公共空地率	6.9%	
・1人あたり公共空地	5.4㎡/人	
・公共空地内容(*指定避難所)		
名称	面積	
1. 高校	0㎡	
2. 中学校	0㎡	
3. みずほ台小学校*	14,999.0㎡	
4. みずほ台中央公園*	13,003.0㎡	
5. 大原公園	2,000.0㎡	

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署 応援協定 所沢市、川越地区消防組合、 新座市、志木市各消防本部
・消火栓本数	29本
・1消火栓あたり世帯数	71.3世帯/本
・消防水利貯水施設数	25 (3) か所 () 内は容量40トン以上の施設数
・消防団機械器具置場	0

5. 危険物指標

・給油取扱所	0か所
・一般取扱所	0か所
・屋内・屋外(タンク)貯蔵所	0か所
・地下タンク貯蔵所	1か所

6. 既往災害

・家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
平成 3年 9月(氾濫18号)	31棟	13棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
・崖崩れ被害(年 ~ 年)			0件
・火災出火件数(平成 3年 ~ 年)			2件
・1923関東大地震被害			
家屋全壊			0戸
家屋半壊			0戸
被害率			0%

7. 防災基盤施設

消防	1か所	富士見消防署みずほ台分署
病院	0か所	
医 院	5か所	みずほ台皮ふ科医院, 根本眼科 厚生歯科医院, 東みずほ台クリ ニック, みずほ台歯科
休日診療所	0か所	
警 察	0か所	警察署 派出所
水防施設 その他の施設	3か所	鶴馬3丁目排水ポンプ場 3か所
・自主防災組織(数)	0	
・自主防災組織参加世帯率	0%	
・飲用井戸本数	0本	

8. 危険度評価

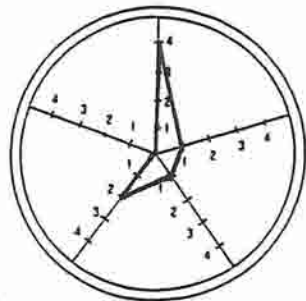
・内水災害危険度	4ランク
・外水災害危険度	0ランク
・土砂災害危険度	0ランク
・木造建物被害危険度	1ランク
・木造建物出火危険度	1ランク
・木造建物延焼危険度	2ランク

地盤	地盤の地震動危険度	1ランク
危険度	液状化危険度	0ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4

内水災害危険度



液状化危険度

木造建物被害危険度

木造建物延焼危険度

木造建物出火危険度

9. 地盤条件

地盤は、台地（台地段丘）で硬く、低地（谷底平野）で軟らかい。台地で震度5（+）（強震の強い方）、低地（鶴馬3丁目1番地から14番地）で震度6（+）（烈震の強い方）の地震が予想される。

10. 問題点の整理

災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	富士見江川沿いの住宅地（低地）の下水路からの溢水。 水田（低地）の灌漑用水路からの溢水。	1. 水防能力	水防施設は、富士見江川沿いに、鶴馬3丁目排水ポンプ場、U字溝が設置されている。
2. 外水災害	少ない。	2. 防災組織	無い。
3. 倒壊危険	台地では地盤が良いので倒壊の危険性は低く、低地部では倒壊の危険性がやや高いと予想される。	3. 消防能力	世帯数と比較して消火栓数が少ない。
4. 出火危険	出火の危険性は低いと予想される。	4. 防火能力	みずほ台駅東口の商業施設、業務施設は不燃化が促進されている。また、駅東口の商業地域は防火地域に指定され、都市防災を踏まえた街づくりが進められている。
5. 延焼危険	出火の危険性は、低地の住宅地で高く、台地で低いと予想される。低地の住宅地では火災の発生に注意を要する。	5. 避難収容力	町会内にはみずほ台小学校、みずほ台中央公園が避難所に指定されている。みずほ台小学校の収容力は十分である。1人あたりの公共空地は5.4㎡/人と見込まれる。
6. その他の災害	低地の住宅地で液状化の危険性がやや高いと予想される。		

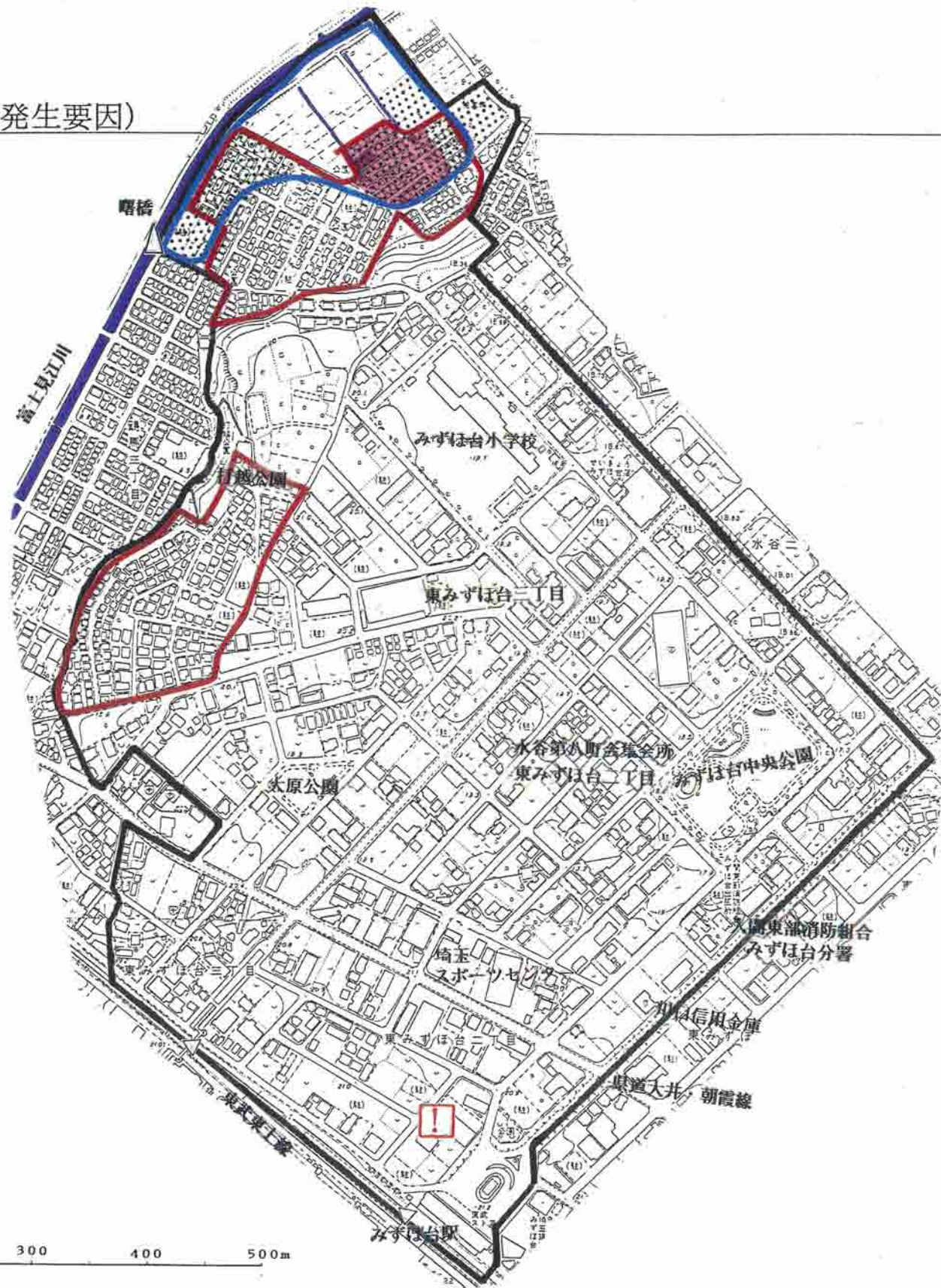
11. 解決の方向性

富士見江川沿いの水田の灌漑用水路の溢水の予防は、河床のほりさげなど富士見江川の流量を増大し、逆流の防止とより能力の高い排水ポンプの設置をするなどの抜本的な対策が望まれる。新河岸川流域総合治水対策事業（県）を踏まえ、住宅地内の雨水の流出抑制施設や住宅のかさあげを促進するための補助金制度などの抜本的な処置が望ましい。

低地部では地震火災、液状化の危険性がやや高いと予想される。この地域で災害が発生した場合、り災者は、町会の北側にある坂道（斜面にある道路、避難可能な道路の一部）を利用して避難所（みずほ台小学校）へ避難しなければならない。したがって、この地域の避難可能な道路を利用するり災者、特に災害弱者（老人、幼児、身体障害者）が安全に避難所へ避難できる避難誘導の対策が望まれる。

※ 想定震度 5（+）（強震（強））

防災現況図A(災害発生要因)



凡 例

●	給油取扱所
■	一般取扱所
⊙	危険物屋内タンク貯蔵所
◇	危険物屋外タンク貯蔵所
□	危険物地下タンク貯蔵所
▲	L P G 充 填 所
△	橋 梁
▽	横断歩道橋
△	立体交差
□	木造家屋密集地域
—	河川・水面
⚡	急傾斜地崩壊危険区域
●	盛 土
□	浅い谷・低地(谷底平野)

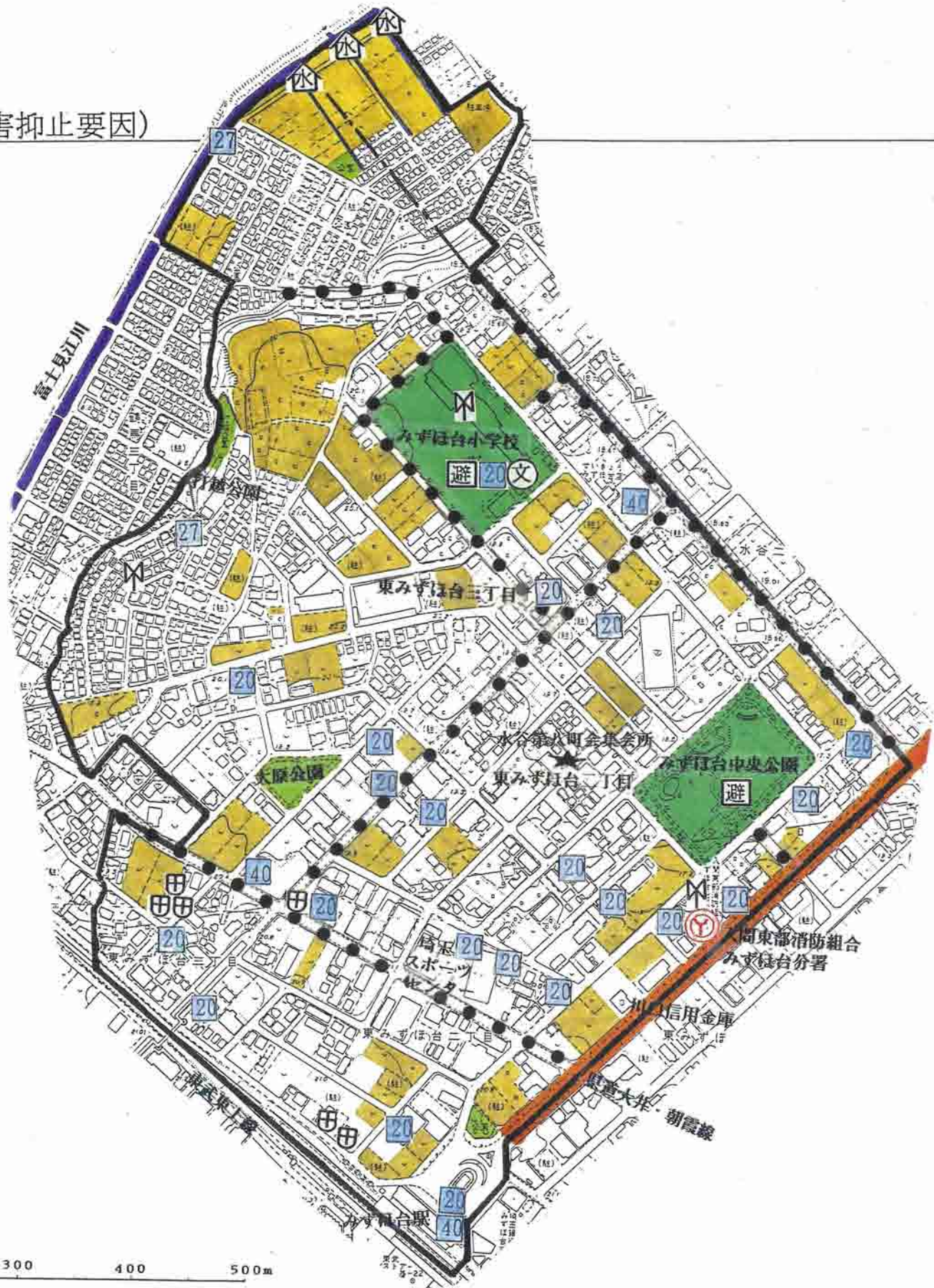
既往浸水域(平成3年台風18号)

■	田の浸水地域
■	田の被害区域
■	畑の被害区域
■	床上浸水地域
■	床下浸水地域



0 50 100 200 300 400 500m

防災現況図B(災害抑止要因)



凡 例	
	消防署・出張所
	消防団機械器具置場
	水防施設
	防火水槽・プール
	警察署・派出所・駐在所
	市役所・出張所・公民館
	防災行政用無線子局位置
	コミュニティ・集会施設
	保健所・保健センター
	病 院
	医 院
	休日診療所
	指定避難所
	公 園
	河川・水面
	避難可能な道路
	幅員12m以上の道路
	幅員12m以上の道路 (計画中)
	学 校 (小・中・高)
	空地・水田・畑

0 50 100 200 300 400 500m

